

修士を終えて

平成 18 年度修士卒業 田中 和江

修士 2 年間は、毎日が目の前にある課題をこなすことに必死で、余裕のない精神状態でした。そして勉強不足を痛感し、能力もないのに進学した自分を恥じ、落ち込んでばかりでした。その度に、「知らなくてあたりまえ。それを勉強しに修士に来たのだから」と開き直りにも似た、自分への励ましを繰り返し、また、色々な方々の手をお借りしてきました。決して、大学院を甘く見ていたわけではありません。しかし、2 年間で論文を仕上げるためには、より高い能力を必要とすることを、まさに身をもって知りました。（それは、久しぶりに会う友人・知人から、「田中さん、痩せたね～」と言われることが多いからです。これまで、ありとあらゆるダイエットを試してきましたが、「修士論文ダイエット」？が最も高い効果がありました。食いしん坊の私が、寝食を忘れるほど、夢中になれるものに出会った結果だと思います。）

自分自身に自信をなくし、能力のなさを実感し、体の贅肉までなくなった（まだ減量できる余裕は十分あり）私ですが、修士を終えた今、「もっと勉強したい」と思えるのは、なぜなのでしょう。それは、あまりにも私が「身の程知らず」であることも一理ありますが、能力不足の私を最後まで根気よく、あきらめずにみて下さった橋本先生、田代さん、教育学研究室のみなさんをはじめ、本当に多くの方々が、研究の奥深さとおもしろさを教え、また、支えてくれたおかげが大きいと思います。この場をお借りして、感謝の言葉に代えさせていただきます。本当に、本当に、ありがとうございました。

亀よりも遅い歩みではありますが、次回の研究室紀要も何らかの形で投稿できるよう、これからも歩み続けたいと思います。